



ILMR

NEWSLETTER

No. 24

発行
2016年3月31日

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター ニュースレター

CONTENTS

- 地盤工学講演会「地盤環境と ICT」を開催
- 平成27年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会開催報告
- 「前海を考えるシンポジウム」開催報告
- COMPAS 研究成果報告シンポジウム実施報告
- 藤井直紀特任助教が環境科学賞を受賞
- スタッフの離任

本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。

地盤工学講演会「地盤環境と ICT」を開催

平成28年1月22日(金)に、当センターならびに地盤工学会九州支部、低平地研究会基盤整備専門部会との共催で、熊本大学准教授の椋木俊文先生と、防衛大学校教授の宮田喜壽先生を講師としてお招きし、「地盤環境と ICT」をテーマとした講演会を開催しました。

椋木先生の講演では、X線CTスキャナの歴史や測定原理などを分かりやすく説明していただくとともに、X線CTを駆使してガソリンやディーゼル燃料が地盤中を移動したり残留したりするメカニズムを解明する研究事例を紹介していただきました。土粒子や間隙水の動きをマイクロレベルで定量的に評価できるようになってきており、今後は

これらをスケールアップする研究が必要であることが述べられました。宮田先生の講演では、計算技術と通信技術の発展の歴史を概観し、地盤環境の保全・修復に ICT を活用した研究事例をご紹介いただきました。これまで測れなかったこと、解けなかったことができるようになってきており、これまでの技術者の経験と勘に頼ることから脱却し、科学的データに基づいて説明性を向上させる必要があることが述べられました。地盤に関わる分野でも、ICTの進歩によって、これまでできなかったことができるようになってきました。ICTの導入によって地盤技術の進歩や新たな展開が期待できます。人口減少



フロアからの質問に答える椋木先生



宮田先生の講演の様子

や税収が縮小することが直近の課題としてありますが、市民の豊かな暮らし

を支える社会基盤の整備と維持管理は不可欠です。ICTを適切に導入して社会

基盤整備技術の高度化や低コスト化の技術開発を進めていく必要があります。

平成 27 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会開催報告

平成 28 年 2 月 27 日（土）、本学本庄キャンパス教養教育 1 号館にて上記研究発表会が開催されました。平成 27 年度九州沖縄支部の支部長である山西博幸・センター教授が実行委員長として当該催しを実施することもあり、当センターも後援の形でバックアップを行いました。

研究発表会には 70 名の参加登録がなされ、非会員も含め無料で聴講することができた特別講演会の参加者を含めると 80~90 名の参加者を得ることができました（研究発表数は 42 件）。会場では、学生を含めた多くの若手研究者の発表とともに、水環境や水域生態系に特化した情報交換の場として熱

心なやり取りがなされていました。

特別講演会には、九州大学名誉教授の楠田哲也先生をお招きし、「水環境の現状と展開」と題してご講演いただきました。その中で、若手・中堅の水環境研究者に対し、これまでの先生のご経験とともに最新の話題や今後必ず問題となる切り口や目の付け所についてご教示いただきました。そのほか、閉会式では、支部学術賞や学生優秀講演者の表彰が執り行われ、盛会裏に終わることができました。なお、研究発表会の詳しい内容については、後日、水環境学会九州沖縄支部が発行するニューズレター No.25（5 月発行予定、<http://www.j swe-kyusyu.com/>）をご参照ください。



「前海を考えるシンポジウム」開催報告

当センターでは六者協定事業「有明海のワイズユースに関する教育研究」の一環として、前海を考えるシンポジウムを開催しています。毎年 1 回開催し、今年が 4 年目となります。今回は「鹿島まえうみの調査研究のいま」と題し、当センターのスタッフや佐賀県有明水産振興センターの方に有明海湾奥部の様子、特に生物の発生状況などを中心とした話をしていただきました。具体的には、当センターの吉野健児特任助教からは、有明海湾奥部の底棲生物、特に水産対象とならない生物の近年の動向やサルボウの浮遊幼生についての

研究をお話頂きました。また、有明海水産振興センターの津城啓子さんからはサルボウの資源回復のために産官連携の取り組みについての紹介を頂きました。また、同センター松原賢さんからは海苔養殖にとってつねに懸念されている冬季赤潮の発生状況やその予測についてのお話を頂きました。最後に、生物が棲む環境の善し悪しに関係する浮泥や貧酸素の研究について当センターの速水祐一准教授から解説して頂きました。総合討論では会場から様々な質問や意見が飛び交い、活発な議論となりました。本シンポジウムは年度末の忙

しい時期である 3 月 6 日（日曜日）で、かつ宣伝の行き渡らない中、33 名の方にご参加頂きました。ご来場頂いた方に感謝申し上げます。また、会場となった鹿島市の皆様には樋口市長をはじめとして大変お世話になりました。有り難うございました。



COMPAS 研究成果報告シンポジウム実施報告

近年、有明海では、赤潮が頻発し夏の貧酸素水塊の発生が常態化することにより、ノリが色落ちすることや漁獲量が減少するといった、漁業問題が顕在化しています。また、有明海に生息する多くの固有種・準固有種も、近年その数が減少し、生物多様性が失われつつあるとして、大きな環境問題として認識されています。さらに、司法による諫早湾潮受け堤防の中長期開門の実施の是非を巡る様々な議論は、既に地域の社会問題になっています。こうした様々な問題に対し、地元地域では、種々の問題の科学的評価や分かりやすい説明が強く望まれており、開門による環境改善効果の客観的評価だけでなく、有明

海的环境変動機構の解明と実効性ある再生策が強く求められている状況です。

佐賀大学がハブとなって有明海沿岸の4大学が連携して実施する、有明海地域共同観測プロジェクト(COMPAS)では、こうした有明海の漁業・環境問題・諫早干拓に関わる社会問題の解決に資することを最大の目的に掲げ、それぞれの研究者が持つ知識・技術を結集して科学的な調査・解析を行っています。さらに、また、大学の知の集積・技術に基づいて、有明海再生に向けた地域活動を支援するため、得られた研究成果は、分かりやすく市民・行政に伝えるよう努力しています。

COMPASは、H27年度末で開始から

3年という中間の節目を迎えました。この3年間の活動の中で様々なことが明らかになってきました。そこで、平成28年3月21日に、COMPASの中間成果報告としてシンポジウムを開催し、これまでの成果を報告するとともに、参加者は63名となり、口頭発表6件、ポスター発表9件の演題が報告されました。本シンポジウムでは、諫早湾干拓と有明海環境の問題、長期的潮汐変動・気象変動・外海と有明海環境の関係についての議論を軸に、話題が展開されました。これまでの研究成果から、有明海的环境は種々の要因の影響を受け、今日の状況になってきた事が種々の観点から示されました。今後もCOMPASによる科学的見地からの有明海研究が発展し、様々な情報が提供される事が期待されます。一方で総合討論においては、近年の有明海環境問題が混沌とする中、有明海再生の道筋の統一化について議論していく必要性が指摘されました。

今後のCOMPASにおける有明海研究あり方や、有明海再生の将来について本シンポジウムが、今後の有明海再生の方向性を決めるきっかけになればと期待しています。

■2014年度成果報告シンポジウム報告 (<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/COMPAS/event/sympo20150328-1.html>)



藤井直紀特任助教が環境科学賞を受賞

3月16日、東京大学本郷キャンパスで行われた日本海洋学会大会において、当センターの藤井直紀特任助教(38)

が日本海洋学会環境科学賞を受賞しました。受賞理由は「閉鎖性海域の生物海洋学研究と地域市民へのインタープリ

テーション活動」です。佐賀大学からは2012年の速水祐一准教授の受賞について2人目となります。藤井助教は広

島県出身で、広島大学で日本の代表的内湾域（広島湾、大阪湾、伊勢湾、東京湾）の比較研究を行い、2005年に博士（学術）の学位を取得。その後、愛媛大学沿岸環境科学研究センターCOE 研究員を経て、2011年2月より佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの特任助教として研究と教育活動に従事しています。佐賀大学では、クラゲ類の発生量変動に関する研究を行うと共に、赤潮の消長や栄養塩の自動モニタリングに関する研究にも携わっています。近年では、有明海において複数種のクラゲを国内で初発見したことで知られています。その一方で、「NPO 法人ちゅうごく環境ネット」や、「まえうみ市民の会」

などで指導的役割をはたすなど、活発な地域貢献活動をされています。また、海の生物の観察会やシンポジウムの企画、サイエンスカフェの運営などを通じて、市民と科学者の対話に積極的にとりくみ、地域の海洋環境の理解促進や環境リーダー育成につながる重要な役割を果たしています。さらに、Twitter や Facebook を通じて、海洋環境問題についての情報を一般向けに広く発信するなど、活発な科学コミュニケーション活動を行っています。こうした活動が高く評価され、今回の受賞となりました。



東京大学安田講堂で行われた授賞式の様子。日比谷紀之学会長とともに。

スタッフの離任

当センタースタッフである Kakon Anisha Noori 外国人客員准教授が平成28年3月25日をもって離任されました。平成27年10月1日から約半年という短い期間でしたが、専門分野である地域計画や住環境計画に関する研究を行い、センターに貢献していただき

ました。

また、Le Gia Lam センター講師、江口奈津美 事務補佐員、合田由美子 事務補佐員、太田周作 技能補佐員が平成28年3月31日をもって退職されます。

みなさんの今後のご活躍とご健闘を心より祈念いたします。



Kakon Anisha Noori
外国人客員准教授

Le Gia Lam
研究員

● ● ● 編集後記 ● ● ●

2010年4月に発足した「低平地沿岸海域研究センター」が6年間の時限を迎え、2016年4月からも継続設置となることが決定しました。新たな時限では、佐賀大学の強み・特色を踏まえた研究組織の在り方について検討していくことがより一層求められています。このような課題に対応すべく、今後もセンタースタッフが一丸となって「低平地沿岸海域」に関わる研究・地域貢献に取り組んでまいります。（木梨）

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8582 0952-28-8846

FAX 0952-28-8189 0952-28-8846

E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://ilt.saga-u.ac.jp>